

PRESS RELEASE

デジタルアーツ、“スマホにひそむ危険”を疑似体験できるアプリに 新ストーリーを追加し、6月17日より無償提供開始

～「SNSでの誹謗中傷」など最新事例を4本新たに収録 情報リテラシー教育を支援～

情報セキュリティメーカーのデジタルアーツ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:道具 登志夫、以下 デジタルアーツ、証券コード 2326)は、青少年の情報リテラシー教育教材として無償で配布している、「スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ」に、新たなストーリーを追加し、6月17日に提供開始したことを発表します。新たに収録したストーリーは計4本で、「SNSでの誹謗中傷(加害者)」など最新事例をもとに制作しました。



青少年が直面しやすいスマホにひそむ危険 疑似体験することで「自分事化」できるように

「スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ」は、青少年がスマートフォンやインターネットを利用する中で、直面しやすいトラブルや犯罪被害における危険を疑似体験できるアプリです。

インターネットや SNS でのコミュニケーションを通じたトラブルは毎年後を絶ちません[※]。しかし、こうした事件が報道されても、多くの方は「どのように気を付けたら良いかわからない」、または危険性を実感できず「自分だけは(自分の子どもだけは)大丈夫」と考えるのではないのでしょうか。本アプリは、青少年とその保護者が、こうした危険を「自分事化」し、スマートフォン・インターネット利用にひそむ危険への対策を考えるきっかけとしていただくことを目的としています。

ご家庭向けのフィルタリングソフトウェアメーカーであるデジタルアーツは、これまで青少年の情報リテラシー向上の取り組みに注力してきました。本アプリは 2013 年 8 月より無償で提供開始し、青少年とその保護者、教育関係者をはじめ、幅広くご利用いただいております。

SNSでの誹謗中傷など、新たなストーリーを4本追加し、計15本のストーリーを収録

本アプリでは、「ネットいじめ」、「出会い系被害」といったテーマ別のストーリーを収録し、利用者はテーマを選ぶとトラブルや犯罪被害を疑似体験できるようになっています。今回は、既に収録済みの11本のストーリーに、「SNSでの誹謗中傷(加害者)」、「動画投稿サイトからの個人情報漏えい」、「自撮り被害」、「ワンクリック詐欺」の4本を新たに追加しました。

昨今、芸能人などへの誹謗中傷が深刻化していますが、本人が何気なく書き込みをしたつもりでも、誹謗中傷の加害者となってしまう危険性があります。「SNSでの誹謗中傷(加害者)」では、誹謗中傷の加害者となった場合にどうになってしまうか、加害者とならないために注意すべきことについて触れています。

また、既に収録済みのストーリーでは、「ネットいじめ」についても取り上げています。メッセージアプリで友達同士がコミュニケーションを取っている中で、ちょっとしたきっかけから友達を嫌な気分にならしてしまう、グループで特定の子を無視するといったトラブルが発生してしまいます。アプリでは、加害者となっていた子が、一転して被害者にもなる、といった内容で、加害者と被害者どちらの立場も実感できるようになっています。

スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ

収録済みのストーリー

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| ① スマホ依存 | ② ネットいじめ |
| ③ SNSからの個人情報漏えい | ④ 不用意なSNS投稿による炎上 |
| ⑤ 危険なアプリ | ⑥ 出会い系被害 |
| ⑦ 高額請求 | ⑧ スマホ以外の端末 |
| ⑨ ゲーム依存
(兵庫県立大学の学生によるシナリオ) | |
| ⑩ 友達とのトラブル
(兵庫県立大学の学生によるシナリオ) | |
| ⑪ 友達とのトラブル2
(羽衣学園の生徒によるシナリオ) | |

新たに4本のストーリーを追加

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ⑫ SNSでの誹謗中傷 (加害者) | ⑬ 動画投稿サイトからの個人情報漏えい |
| ⑭ 自画撮り被害 | ⑮ ワンクリック詐欺 |

新ストーリーの例 (一部抜粋)

SNSでの誹謗中傷 (加害者)

芸能人の発言に対し、何気なくSNS上で書き込みをした結果、思わぬトラブルに発展してしまう。



動画投稿サイトからの個人情報漏えい

動画投稿サイトにアップした動画から、個人情報が漏えいし、ストーカー被害に遭ってしまう。



特徴

計15のストーリーから選べる



リアルに近い、ネット上のやり取りを表現



ネット上のやり取りや登場人物の気持ちを、リアルに近い形で表現

ニュースではわからない、被害がどのような仕組みで起きてしまうかを理解できる

す。その半面、顔の見えない相手とやり取りをするので、嘘を付かれても気づきにくく、誤った情報を受け取ってしまう可能性があります。また、その気はなくても相手を不快にさせたり、傷つけたりしてしまいます。こうしたたくさんの危険性があることを改めて理解し、具体的に何に気を付けたら良いかを知ることが重要です。

デジタルアーツは、「スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ」の提供をはじめ、青少年の情報リテラシー向上に役立つ取り組みを実施していくことで、より多くの方の安全なインターネット利用を支援してまいります。

「スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ」

スマートフォン・インターネットを利用する中で直面しやすい危険を疑似体験できるアプリです。スマホの長時間利用による依存や、友達とのネットを通じたトラブルといった身近な問題から、見知らぬ人とのやり取りを通じて、いつの間にか犯罪被害に巻き込まれてしまうケースなど、さまざまなテーマごとに具体的なストーリーで描かれています。

<https://www.daj.jp/cs/sp/app/>

※ [令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況\(警察庁\)](#)

SNSに起因する事犯の被害児童数は、2021年で1,812人、2012年と比べると68%増加しています。
また、被害児童の8割以上がフィルタリングを使用していませんでした。

デジタルアーツ株式会社 概要

Web、メール、ファイルなどのセキュリティソフトウェアの提供を核に事業展開する情報セキュリティメーカーです。

1995年の創業以来、「より便利な、より快適な、より安全なインターネットライフに貢献していく」を企業理念とし、有害情報の閲覧を制限するWebフィルタリングソフトを開発、以来企業・公共・家庭向けに情報セキュリティ製品を提供しております。

東京都千代田区大手町 1-5-1 大手町ファーストスクエア ウエストタワー14F ▶URL: <https://www.daj.jp/>

<本リリースに関するお問い合わせ>

デジタルアーツ株式会社 広報担当 山田 TEL : 090-1555-7254 / E-mail : press@daj.co.jp

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務実施中のため、お電話でのお問い合わせは上記とさせていただきます

- ※ デジタルアーツ、DIGITAL ARTS、i-FILTER、i-FILTER Anti-Virus & Sandbox、i-FILTER@Cloud Anti-Virus & Sandbox、info board、Active Rating System、D-SPA、Anti-Virus & Sandbox for D-SPA、NET FILTER、SP-Cache、White Web、ZBRAIN、クレデンシャルプロテクション、ホワイト運用、m-FILTER、m-FILTER MailFilter、m-FILTER Archive、m-FILTER Anti-Spam、m-FILTER Anti-Virus & Sandbox、m-FILTER@Cloud Anti-Virus & Sandbox、m-FILTER File Scan、Mail Detox、m-FILTER EdgeMTA、EdgeMTA、FinalCode、i-フィルター、DigitalArts@Cloud、Desk@Cloud、Desk、D アラートおよび D コンテンツその他の弊社・弊社製品関連の各種名称・ロゴ・アイコン・デザイン等はデジタルアーツ株式会社の登録商標または商標です。
- ※ その他、上に記載された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。